

常設展示

商品



商品展示のルーツである商品研究所資料室(1951年設置)以来の収集資料を時系列で展示しています。第2次世界大戦の終結から80年。その間にわが国の社会・経済のあり方は大きく変容しました。陶磁器、漆器、染織品など、日本の伝統文化の所産として生活の中に受け継がれている伝統的工芸品について、高度経済成長期から現代に至る、各々の時代相に裏付けられた商品としてのあり方を検証しています。

刑事



過去にあった残酷で非人間的な拷問や刑罰を批判的な視点から回顧し、法と刑罰の歴史を学び、現代の法と社会を考えるきっかけとするために古代から近世にかけての刑法典や江戸時代の警察・裁判・刑罰にかかわる資料を紹介しています。御成敗式目、今川仮名目録など著名な刑法典の数々をはじめ、高札、長柄三道具や十手・捕り縄など江戸時代の捕者道具と、取調べの過程で使用された拷問具、刑罰具や近代の死刑具、さらには海外の刑罰具などの復元資料も展示しています。

考古



日本列島における旧石器時代の存在をはじめ証明した1949年の岩宿遺跡の発掘以降、日本考古学の発展に貢献した明治大学による調査研究の歩みとその成果の数々を展示しています。岩宿遺跡出土石器(重文)、旧石器集落を明らかにした砂川遺跡出土石器(重文)、縄文時代の年代観を大きく変えた夏島貝塚出土遺物(重文)、遮光器土偶、稲作開始期の板付式土器、深草遺跡の石包丁、出流原遺跡の再埋葬資料(重文)、玉里舟塚古墳の大型埴輪群(写真)など見どころ満載です。

明治大学博物館友の会

講演会、見学会、自主学習会などを開催するとともに、明治大学博物館のパートナーとして各種ボランティア活動を展開しています。

詳しくはこちら



来館案内

開館時間 月曜～金曜10:00～17:00(入館は16:30まで)
土曜10:00～16:00(入館は15:30まで)

休館日 日曜・祝日 夏季休業期間(8/1～9/19)の土曜
1/17 2/4,5,16 8/10～16 11/1 12/25～1/7
※祝日でも休日授業実施日(4/29 7/20 9/21,22 10/12 11/23)は開館

観覧料 無料

交通 JR御茶ノ水駅徒歩5分 地下鉄新御茶ノ水駅徒歩8分
地下鉄神保町駅徒歩10分

住所 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1
明治大学アカデミーコモン地下1階
TEL03-3296-4448 博物館
FAX03-3296-4365 ホームページはこちら



オンラインコンテンツのご案内

● 明治大学博物館ONLINEミュージアム

展示室を
あるく

じっくり
見る

展示会
アーカイブ



いつでも、どこでも、バーチャルミュージアムをお楽しみください

● 明治大学デジタルアーカイブ

所蔵するデジタル画像をオンライン上で公開しています



● Mm×おうちミュージアム

資料解説の動画をはじめとするコンテンツを公開中です



● SNSによる情報発信も充実!



弥生時代の再葬墓

観覧
無料

2月6日(金)～3月26日(木)

【主催】明治大学博物館

弥生時代の「再葬墓」は、なきがらを土に埋めるなどした後、いくつかの骨を土器に入れて地中に納めた埋葬方法で、明治大学による千葉県天神前遺跡の調査(1963年)によってその存在が初めて明らかになりました。新潟県六野瀬遺跡など東日本の再葬墓出土資料の数々から、その実像を紹介します。



栃木県出流原遺跡
第11号墓壙出土土器(重文)

明治大学と山の上ホテル

観覧
無料

8月3日(月)～10月25日(日)

【主催】明治大学史資料センター

2024(令和6)年11月、学校法人明治大学は山の上ホテルの土地・建物の取得を発表しました。ヴォーリズ建築として有名な山の上ホテルの建物は、1932(昭和7)年に明治大学校友で北九州市出身の佐藤慶太郎(1890年卒業。石炭商・炭鉱経営者)の資金で建設され、1954(昭和29)年にホテルとして開業しました。本展覧会では、山の上ホテルの足跡と佐藤慶太郎の業績を、本学とのかかわりをまじえながら紹介します。



駿河台キャンパス
(1955年)



山の上ホテル
(2000年代)



佐藤慶太郎
(『生活』第6巻第2号)

近代の柿右衛門と鍋島

観覧
無料

4月7日(火)～5月23日(土)

【主催】明治大学博物館

1940～50年代頃の東京銀座で精陶社という陶器商が営業をしていました。同社は柿右衛門焼・鍋島焼を販売していましたが、廃業の後、ご子孫の手許にあったまとまった数の商品を当館で受贈しています。

佐賀藩鍋島家の御用窯が廃絶した後の後継窯の動向、十二代酒井田柿右衛門が赤絵で有名な柿右衛門様式(濁手)を復興するその以前、といった陶磁史のミッシングを埋めるそれらの品々は、近年高まりを見せつつある近代以降の陶磁史研究において将来的な利活用が見込まれます。



染付桜御所車文皿
(鍋島焼)



染錦地紋画八角形菓子器
(十二代酒井田柿右衛門・工房作品)

新収蔵品展2026

観覧
無料

11月10日(火)～12月22日(火)

【主催】明治大学博物館

2025年度に新たに収集した資料等を紹介し、商品部門は2023～2024年度の調査研究の成果収集品として甲州印伝細工(山梨県)と京焼・清水焼(京都府)を、刑事部門は錦絵製作の様子子が描かれた「大日本物産図会 東京錦絵製造之図」(1877年頃)、考古部門は開皇12(592)年銘がある隋代の小金銅仏を出品します。



「大日本物産図会
東京錦絵製造之図」(部分)